

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/06/01 ~2019/06/30)

1. 勉学の状況

6月に入ってから周りの人も続々と試験に向けて勉強し始め、中心キャンパスにある図書館は昼間ほぼ満席状態です。この図書館は年中24時間開いているので、とても便利です。

今月は2つの発表形式のテストがありました。まず一つはStudienkolleg Sachsenのドイツ語クラスでの音声学の授業でした。内容は各々が研究していることについて5分でまとめてプレゼンするというもので、ここでは自分の研究テーマと関連のある間テクスト性について発表しました。音声学の授業なので内容はそれほど重要ではなく、単語の発音はもちろん、文の抑揚や話し方、発表中の立ち振る舞いなどが重視されました。自分の好きな研究テーマについて語るというのは何よりも楽しいもので、このトピックをドイツ語でまとめるのは初めてだったのですが、個人的には満足のいく発表ができました。もう一つは同じくドイツ語クラスの会話の授業で、デンマーク出身の留学生と二人組で15分ほどのプレゼンをしました。テーマはドイツの保守的な政治団体PEGIDA(西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者)についてで、とくに最近スキャンダルになったLKA-Mannと呼ばれている人物にフォーカスを当てて発表をしました(彼がどんな人物なのか、気になる方はgoogelnしてみてください)。もともとあまり知識のない政治分野についていきなり発表するというのは至難の業でしたが、随分前から発表パートナーと毎週会い、調べてきた情報や作成してきた資料などを持ち合わせ、着実に準備を進めてきたのでそれほど焦らずに発表に臨めたと思います。今まで2人以上での発表をする機会がなく不安ばかりでしたが、パートナーも積極的に取り組んでくれたおかげもあり、これぞ協働学習と呼べるものをなんとか成し遂げることができました。また今回の発表で心がけたのは、「自由に話す(frei sprechen)」ということです。これまでは頭で考えた原稿を書き起こし、それをなるべく覚えてから発表するという方法でやってきましたが、どうもそれだと口調が機械的になりがちで、臨機応変な対応ができません。ということで今回は話すポイントだけをまとめたメモだけを用意して臨み、なるべく自然(spontan)な発表になるよう心がけました。いつまでも機械的に覚えていたのでは納得のいくプレゼンはできないので、なるべくこれからも生き生きとした発表ができるように努力していきたいです。

その他テストではありませんが、作文の授業でもいくつか課題がありました。与えられたテーマについてレポートの導入(Einleitung)、要約(Zusammenfassung)、批評文(Kommentar)を書いてメールで提出するというものです。あらかじめ書くことが決まっていてそれをドイツ語で書くだけなら難しくないのですが、レポートの構成を守りつつ自分の意見も織り交ぜなければいけないとなると、やはりそれなりに時間はかかります。締め切りギリギリになることもありますが、毎回しっかりと時間をかけて取り組むようにしています。

授業以外でもドイツ語を自学自習しようと思っはいるのですが、暑さのせいあまりやる気

が出ず課題をこなすだけで精一杯です。

2. 生活の状況

炊飯器を買いました。鍋でも十分炊けるのですが、コンロの火加減が難しかったり鍋にこびりついたりして色々面倒なので、20ユーロ弱で買いました。まだまだ留学期間は残っているし、このコスパなら買う価値はあったと思います。4月の報告書で寮暮らしは特に問題は無いと書きましたが、長く暮らしてみるとやはり悪い面も出てきます。同居人はみんな確かにいい人なのですが、掃除をしなすぎで困ります。特にキッチンがひどく、一度きれいに掃除しても一週間後には床やシンクにゴミや食器が散らばっていて、片づけられる気配がありません。ときには自分が買ったフライパンを勝手に使われ（そこまでなら良い）、使用後洗いもせず、油がこびりついたまま食器棚にしまわれていたこともありました。直接文句を言えばいいのですが、なにしろいつ家にいるのかわからないくらい同居人は静かなので（笑）、まあそんなに目くじらを立てるほどでもないかと我慢しています。それにもし誰も掃除をしないなら自分がやればいいのかと、最近勝手に掃除係になっています。

6月は一言でいえば、(ありがたいことに) 音楽尽くしの月でした。6/14~6/23まで毎年恒例のバッハ音楽祭がここライブツィヒで催され、数ある音楽家たちによる演奏会がいたるところで開かれていました。自分もバロック音楽は好きで普段からバッハの音楽をよく聞いているので、こんなありがたいイベントはありません。ハノーファーに住んでいる知り合いが音楽祭期間中に遊びに来た際には、ストラヴィンスキーのバレエを観ました。バッハ音楽祭の後、28日と29日にはゲヴァントハウス管弦楽団による無料の野外コンサートが開かれました。これも毎年の恒例行事となっているようです。この季節ライブツィヒだけでなくドイツ中で野外コンサートが催されているようで、その翌日にはベルリンフィルのヴァルトビューネ・コンサートがありました。中学生のころから将来いつか絶対聴きに行こうと夢見ていたコンサートだったので、絶対に逃すまいと思ひ弾丸で聴きに行ってきました。ベルリン中の市民もこのコンサートを待ち望んでいたようで、クラシック音楽はドイツの人々の生活には欠かせないものなのだとすることを、改めて感じました。

6月は暑い日が続きました。26日にはコシェンという町で38.6度を記録し、6月の観測史上最高気温を更新したそうです。気候変動ではなくアフリカ大陸からの熱波が原因だそうですが、それでもここ最近気温が上がってきているとドイツ人の友達から聞きました。この報告書を書いている今はそれほど暑くなくて長袖シャツで快適に過ごせる程度なのですが、「ドイツは夏でも比較的涼しい」という常識が少しずつ覆されつつあるのかもしれませんが。前回の報告書でも書いた通り部屋にはクーラーが無いので、なるべく涼しい時間帯に窓を開けて換気をしています。が、この国では窓からの景観を守るためか網戸が付いていません。特に夜になると部屋の明かりに吸い寄せられて様々な虫が部屋に入り込んできます。虫と一緒に寝ることについて耐えられなくなったので、先日簡易網戸を買って取り付けました。エアコンなしで暑い夏を切り抜けるには、まだまだ工夫が必要なようです。ちなみに、最近ドイツのスーパーでアクエリアスが売られて

いるのを見かけるので、いい熱中症対策になると思います。日本で馴染みのある食べ物と言えば、最近キットカットの抹茶味がドイツに上陸しました。日本ではほとんど興味が無かったのに異国の地でそういうものを目にするとつい手に取って買ってしまうのは、なんだかおかしなことです。

<Leipzig の写真>



バッハ音楽祭
夜の野外ステージ

オノ・ヨーコさんの展覧会がライプツィヒで開かれました。前衛的な作品を目の当たりにして、人類全体の問題を考えさせてくれる展覧会でした。日独の垣根を超えた空間です。



日本学部の学生が企画してくれた旅行で、Belantis という遊園地を訪れました。ドイツ人は絶叫系に強いみたいです。

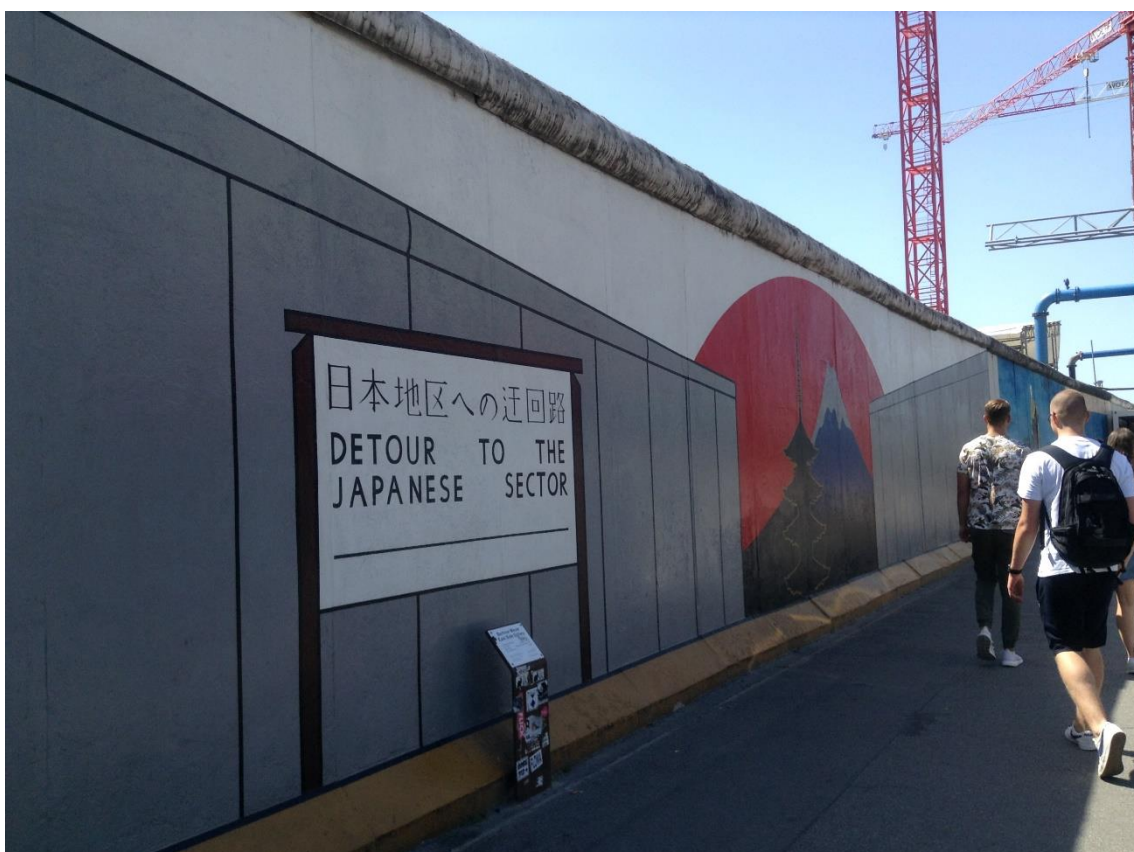


ゲヴァントハウス管弦楽団の野外コンサートと美しい夕焼け。

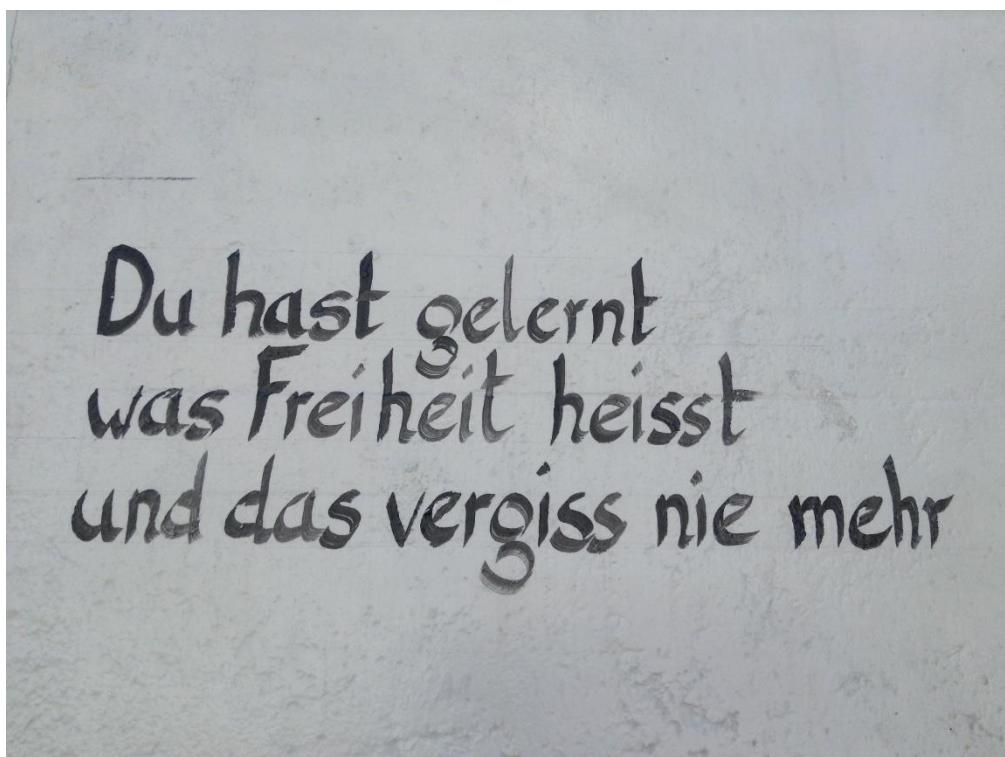
〈Berlin の写真〉



Tempelhofer Park: 旧テンペルホーフ空港は冷戦時代、ベルリン大空輸の際に利用されました。現在は公園として再利用されており、ベルリン市民の憩いの場となっています。滑走路で自転車やセグウェイに乗って楽しんでいる人が多くいました。



East Side Gallery: ベルリンの壁跡には様々な絵が描かれ、中にはこんな日本とのつながりを感じさせてくれる作品もありました。



壁にかかれていたメッセージ

「あなたは平和が何なのかを学んだ、だからそれを二度と忘れないように」



ベルリンフィルハーモニー管弦楽団
ヴァルトビューネ・コンサート